

各部屋ごとの色の考え方

リビングルーム ~ くつろぎと調和

リビングルームは、家族のだんらんや憩いの場だけではなく、時には来客のもてなしの場ともなる、家の中で最も多機能で多目的な部屋です。心休まる楽しい雰囲気 연출 したいものです。基本的に色相、明度、彩度ともにコントラストを押さえ気味に、ソフトな色合いでまとめるのが良いでしょう。また、アクセントとして自然の緑を効果的に配置するだけでも、心が休まる癒しの空間となるでしょう。

ダイニングルーム ~ 明るさと活気

食事をおいしく取るために、色は大切な役割を果たします。基本的に、赤や黄などの暖色系は食欲を増進させ、逆に青や紫などの寒色系は食欲を減退させます。インテリアも強い色やはっきりした模様を避け、リラックスできるように、シンプルで明るい色にまとめた方が良いでしょう。全体をウォームトーンでまとめ、アクセントに朱赤やアクアブルーを使った、楽しく活気のあるダイニングを見ていきましょう。

キッチン ~ 清潔感と機能性

キッチンは機能性だけでなく、楽しい雰囲気や食べ物がおいしく見えるように、明るめの中間色を基調とするほうがよいでしょう。また、冷蔵庫の色によってもかなり感じが変わります。キッチン壁面タイルも圧迫感のない物を選んだほうが良いでしょう。

バスルーム ~ くつろぎと清潔感

バスルームは1日の疲れをとり、心身ともにリラックスさせる場ですから、色を与える役割にも大きなものがあります。洗面所も含めて、バスルームの配色は、基本的に肌の色が生き生きとみえる肌色と補色関係にあるアクア系の色を使ったり肌色を自然に美しく見せるピーチ系の色を使うと良いでしょう。

各部屋ごとの色の考え方

ベッドルーム ~ 落ち着きとやすらぎ

人生の3分の1を過ごすベッドルームは、1日の疲れをいやす重要なスペースと言えます。プライベートなスペースですから個性を生かしたインテリアで、しかも落ち着きとやすらぎが大切な要素になります。

全体的に明るくソフトな暖色系の同系色でまとめて、くつろぎと暖かさを演出したり、アクセントに反対色を使って個性的な雰囲気を出しても良いでしょう。

子供部屋 ~ 明るく明快に

子供部屋は子供の自立心を養い、色彩感覚豊かな個性を育てるものとして、その環境は大変重要です。

その部屋の主人である子供がいま、どんな時期にさしかかっているのかを把握して、その時々にあった演出をしていきましょう。赤ちゃんは原色から知覚しはじめます。

幼児期はダークトーンの色を使うより、純色を使ったほうが、子供の脳に刺激を与え、その発達を助けます。

その際、天井は明るく、壁は中間色でまとめ、アクセントはビビットカラーを用い、明るく楽しい活動的な雰囲気を演出します。また、勉強が中心となる時期からは、集中力の高まるクールトーンを基調としたインテリアにします。

高齢者の部屋 ~ 落ち着きと暖かさ

色彩に関する感覚や能力は年齢と共に低下していきます。

とくに寒色系の区別がつきにくくなり、明るさの面においても20代の人約3倍の照度が必要です。

お年寄りの部屋には、暖かさの感じられるウォームトーンをベースに壁や天井は明るめにし、アクセントカラーにウォーム系のグリーンやレッドを使って、少し刺激のある活力の出る空間にします。